

大専

TSU・NA・GA・RU

高校・地域

20年後の社会は、いったいどうなっているのでしょうか。

日本経済や国際情勢、文化や社会、IT・技術のさらなる進化・・・18歳人口もついに100万人の大台を割り込み、就労環境や生活の景色が変化していくことを疑う人はいないでしょう。

遡ること約20年前、インターネットの商用化が開始され、社会システムや産業構造、そして身近な生活が大きく変化してきたことを実感する人も多いと思います。新たな仕事・職種が誕生し、そして働き方やキャリアのあり方についても変化が求められてきました。

つまり、20年という時間単位で捉えれば、そこには「変化」が存在し、たとえ環境が今と異なったとしても、働き方や生き方もしなやかに対応していくことが求められます。

数年後には、そんな社会に歩みだしていく生徒たち。

どんな力を身につけてあげればいいのでしょうか。

先のVol.402でお届けした「なぜ学ぶ なぜ働く」特集では、全国の先生方から多くの反響をいただきました。学び（教科）と働く（社会）の“つながり”を命題に置き、教科学習の目的を考えました。

そして今号では、2大特集として「高大専接続に高校はどう取り組むか」と「地域課題に向き合うキャリア教育」を企画しました。

一見、異なるテーマのように見える特集に組み込まれたキーワードは“つながり”です。

高校が、高等教育機関である大学や専門学校とどう接続していくか、そして、地域社会の中にある高校がどう地域と連携していくか。

大切なことは、教科で習ったことを「活用する」機会をもつこと。高校を基点に、少し先の学びの場や地域社会という最も身近な大人の世界の中で一市民として学ぶことは、生徒たちの学ぶ「意欲」を醸成すると同時に、20年後の社会を主体的に生き抜く大きな力になるのではないのでしょうか。

“つながり”は、広がりや深まりへ。

生徒たちの「未来」は、今創られています。

山下真司（本誌 編集長）

主体的学習者を育てる

# 高大専接続に 高校は どう取り組むか

高校と大学・専門学校との接続という何をイメージするでしょう。出前授業、オープンキャンパス参加といった「点」の連携、大学入試という「面」の接続……ここではそれらだけでなく、高校を卒業後、大学・専門学校に進学し、その後社会へ出ていくひとりの人間への「連続した教育の営み」を「接続」と呼びたいと思います。

すでに全国では以下のような先進的な接続コンテンツも実践されています。①生徒の確実な「進路」選択のための連携、②大学や大学院での「学び」の継続的な体験、③高校の「授業」をよりよくしていくための協力……。

このように、社会で求められる「主体的な学習者」に高校生を育てていくための「高大専接続」に、高校は受け身ではなく「主体的に」取り組むときが来たといえるのではないのでしょうか。

「新しい接続」に取り組む中央教育審議会から会長と、高大接続特別部会で臨時委員を務める元高校長からも、高校の先生方へのメッセージをいただきました。

